

『私の趣味 カモメに出会いたい』

1. カモメの水兵さん

私が人生で初めてカモメの名を口にしたのは、おそらく5才の幼稚園児の時だったと思います。幼稚園のメインイベントである発表会で、私は友達二人と計三人で「カモメの水兵さん」を歌いました。歌詞の一番目で、白い帽子のあと、白いシャツと服の前後がわからなくなったところで、心が動揺し、二番目以降がうまく歌えなくなってしまったことが記憶に強く残っています。そのためか、私にとって「カモメの水兵さん」は、忘れようとしても忘れられない思い出の歌となりました。

2. カモメに会いたい

野鳥の知識のない間、私はカモメは河口か海岸へ行けば、いつでも簡単に見られると思っていました。10数年前、あるタウン新聞の片隅に見た手賀沼の野鳥を守る会の誘いに乗り、入会し、野鳥との出会いの人生をスタートしました。手賀沼には、さまざまな種類の野鳥がいました。冬のある日、沼上を一羽のカモメが飛んでいるのを見つけました。ベテランの説明は、それはカモメの仲間ではあるが、セグロカモメという名のカモメであるということでした。私はカモメのことを知りたいと思い、カモメの分類を図鑑などで調べました。そしてカモメの仲間には「カモメ」の他、セグロカモメ、ウミネコ、ユリカモメなどいろいろな種があること、姿や形が似ているため、見分け方が大変難しいのだということ、「カモメ」の数は他に比較して多くないこと、などを知りました。

「カモメの水兵さん」のカモメは、カモメの仲間の意味のカモメでしょうか？ それとも「カモメ」という名のカモメでしょうか？ 私は何故か後者と断定し、そんな「カモメ」に出会いたいと思いました。



カモメの水兵さん

3. カモメに出会う

一昨年(2019年)の10月、おながの会(布施新町野鳥の会)の仲間達で、冬鳥の飛来を期待して葛西臨海公園を訪ねました。海岸には白と黒のコントラストが美しいミヤコドリ(ミヤコドリ)の群れが見られました。打ち寄せる高波の間に間を多数のカモメが飛んでいました。「カモメ」がいるかも知れない。一瞬、心の高鳴りを覚えました。双眼鏡は、セグロカモメやウミネコとともに、それらとは明らかに異なる、白い鳥を捉えていました。「カモメ」です。私が勝手に決めた「カモメの水兵さん」の「カモメ」に出会いました。「カモメ」は白い帽子をかぶり、白いシャツを着て、その上にやや灰色の白い服を着ていました。大人の「カモメ」(成鳥)の他に子供の「カモメ」(若鳥)もいました。波間を飛び続けているように見えたが、浮かんだりすることもあるのかも知れません。口を突いて「カモメの水兵さん」が出てきたのは言うまでもありません。私はその日、家路に就くまで歌を歌い続けていました。

かもめの水兵さん 作詞：武内俊子、作曲：河村光陽

「かもめの水兵さん ならんだ水兵さん 白い帽子 白いシャツ 白い服 波にチャップ
チャップ うかんでる」